

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第74回 「情」と「理」の葛藤

北朝鮮に「経済制裁」を 74%...読売新聞が 12 月に実施した全国世論調査（面接方式）で、日本人拉致問題などが今後も進展しなければ、北朝鮮に対して経済制裁を発動すべきという人が、4 人のうち 3 人に上ったことが報道されていた。このことがどれだけ正確な「世論」かの立証は別として、今の、日本国民の大方の「意見」を表していることに間違いはないだろう。

だが、すごく冷静に、ちょっと引いて客観的に見ると、実は色々な問題をクリアする必要があり、そう簡単に経済制裁発動を決められない、純一郎総理の顔が浮かんでくるのは、小生だけであろうか？

北朝鮮の本音は何か、アメリカや中国はどうするのか、北朝鮮に経済援助を実施している国は、わが国を含め 16 カ国、日本単独で制裁して、どれだけの効果があるのか、制裁実施となれば、拉致問題は 2 度と交渉のテーマにはならなくなる、それを誰が望んでいるのか、片方で「韓流」ブームにのぼせ上がっている「平和ボケ」日本人が、韓国と北朝鮮の関係を無視して、またまた世界中の「笑いもの」になりたいのか、韓国人の親戚が北朝鮮にいる事実を、おばさん方はご存知か、北朝鮮にも「ヨン様」並はいるかもしれない。

どうもこの手の話は、「情」が先にたってしまう。日本人は世界中例のない単一宗教、単一民族、単一言語（厳密に言うと、そうではない）。誰かが大きな声で言ったことが、異常なまで単純に広まり、広範囲に感染していく「コマーシャル効果」の高い国である。とりわけ「感情」に訴える事案は、その「情」だけが一人歩きし、ややもすると本質を見失う危険性をはらんでしまう。

今この時、最も必要なことは「理」をもって判断することではないだろうか？特に我々経営者の端くれは、常々冷静に、適切な決断が求められている。あの人はいい人だから、彼はがんばった...とても素敵な言葉に響くが、それでも結果を残せない人は制裁をすることが逆に「公正・公平」である。このジャッジメントが出来るか否かは「理」に基づくスタンダードがなければならない。

平和を愛する気持ちと国防論、福祉の充実と財政事情・増税論、偏差値・学力アップと個性化教育、そもそも「本音と建前」なる、奇妙な論理、日本人の思考構造に脈々と現存する論理観は、常に矛盾との葛藤であったろう。それは正に、「情」と「理」の判断の問題なのかもしれない。混沌とした、複雑化した、あるいはかなり混乱した社会であればあるほど、実は、「理」の判断が求められる。来年、2005 年の経営は、こんな環境の中で実施していかなければならないだろう。今こそ「理」が必要な時かもしれない。